

# 市民まちづくり フォーラム

知ろう、語ろう、仙台の重要プロジェクト2018



日にち 平成30年9月1日(土) 13:00～16:30

場所 TKPガーデンシティ仙台 仙台市青葉区中央1-3-1 アエル21階

主催: 仙台市

まちづくり政策局政策企画課

〒980-8783 仙台市青葉区国分町3-7-1

TEL:022-214-8475 FAX:022-268-4311 Eメール:mac001620@city.sendai.jp



経験をつなぎ、そして未来へ  
防災環境都市・仙台

仙台市では、本市が目指す都市像などを掲げた「基本構想」や「基本計画」に基づき、取り組むべき具体的な施策・事業を、「実施計画」において定めています。また、これらによる取り組みのうち重要な施策については、市民の皆様との協働により、評価・点検を行うこととしています。

市民まちづくりフォーラムは、市民の皆様により、これらの計画等に基づき本市が取り組んでいる、または検討している重要プロジェクトの現状を評価していただき、より良い施策とするための課題などについて、ご意見、ご提案などをいただくことを目的に、開催しているものです。

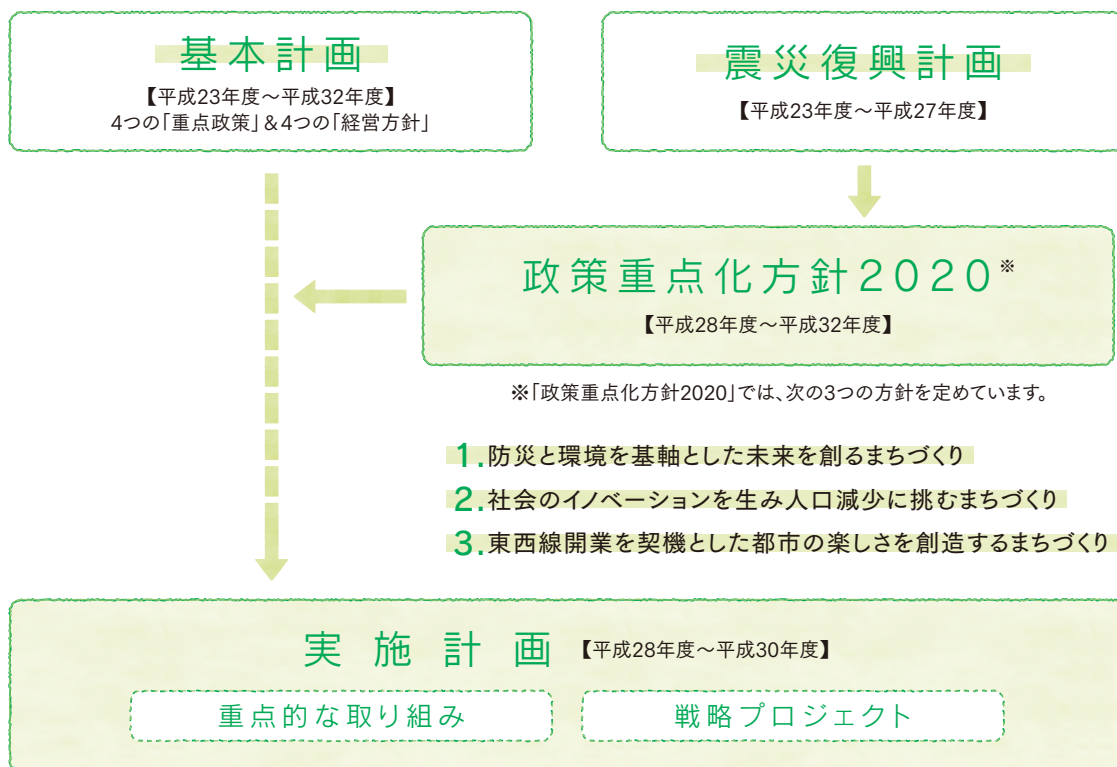
このフォーラムの開催は今年度で7回目となります。より多くの市民の皆様に参加いただくため、無作為に抽出した市民の皆様に参加依頼状を送付し、ご希望された方々に参加いただく方法を採用しております。今回は3,500名の方々に依頼した結果、78名の方々が希望され、当日は62名の方々に参加いただきました。

仙台市の  
計画体系

本市は、平成23年3月、21世紀半ばに向けて目指すべき都市の姿を示す「基本構想」と、これを実現するための10ヵ年計画である「基本計画」を策定しました。また、同月に東日本大震災が発生したことを受け、これらを補完するものとして、復旧・復興に向けた「震災復興計画」を策定しました。

平成27年度末には、「基本計画」が中間年次を迎えるとともに、「震災復興計画」の計画期間が終了することから、「震災復興計画」の理念を発展的に継承しながら、平成28年度からの5年間に重点的に取り組むべき政策の方針として、「政策重点化方針2020」をとりまとめました。

現在の「実施計画」は、これらの計画や方針に沿って、平成28年度からの3年間に体系的・計画的に取り組むべき具体的な事業を定めています。



# 平成30年度 市民まちづくりフォーラムについて

仙台市の重要プロジェクトの現状を「評価」していただき、  
今後、より良い施策とするために課題などについて

**ご意見・ご提案などをいただく**ことを目的として、  
グループワーク形式で開催

## ■タイムスケジュール(予定)

13:00~13:10	開会・あいさつ
13:10~13:30 (20分)	オリエンテーション
13:30~14:40 (70分)	1つ目のテーマについての話し合い
14:40~14:50 (10分)	休憩
14:50~16:00 (70分)	2つ目のテーマについての話し合い
16:00~16:30 (30分)	ふりかえりの時間
16:30	閉会

## フォーラムの流れ

### 政策説明

政策を担当する職員が  
政策の取り組み状況をご説明します。



### 話し合い

政策の評価や今後の展開等について  
ファシリテーターの進行により  
参加者の皆様同士で話し合います。



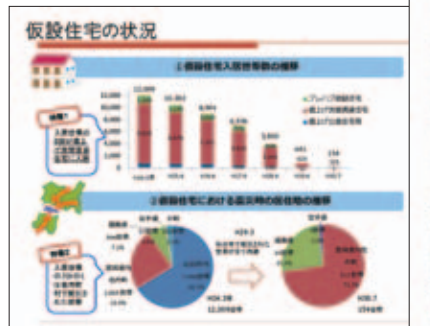
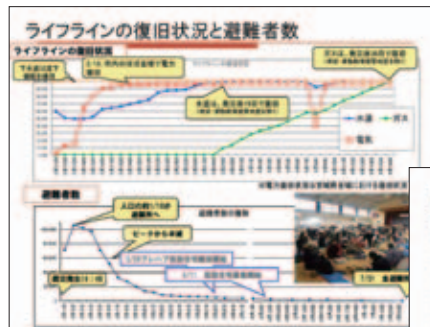
### 政策評価シートへ記入

話し合いを基に、  
参加者一人ひとりが政策の評価やご意見、  
ご感想を記入します。



# 震災からの復興

震災からの復興に向けて取り組んできたこと(被災者の生活・住まいの再建、東部被災地域における防災・減災対策、防災集団移転跡地の利活用、海岸公園の復旧など)や、震災の記憶の伝承(震災遺構仙台市立荒浜小学校の公開、防災教育など)について話し合いました。



## 話し合いを終えて

### ファシリテーターから



フリーアナウンサー  
黒田 典子氏

すべての仙台市民に響くこのテーマは、震災時の話(自己紹介)からスタートしました。仙台市の復興の取組は、スピードから評価をもって受け入れられている印象で、疑問・質問に対し、丁寧な回答があったことが良い雰囲気につながりました。「こころ」の復興についてのスピードを気にされている方も多く、市民の経験がもっと生かされるため、忘れられないよう「語り継ぐ」アプローチを増やしていく要望もありました。一步先行く、他者への思いやりある意見を多数いただき感謝いたします。

### 担当職員から

まちづくり政策局  
防災環境都市・震災復興室  
村口 恭之

健康福祉局  
被災者生活支援室  
岡田 裕司

都市整備局  
復興まちづくり課  
薄井 健

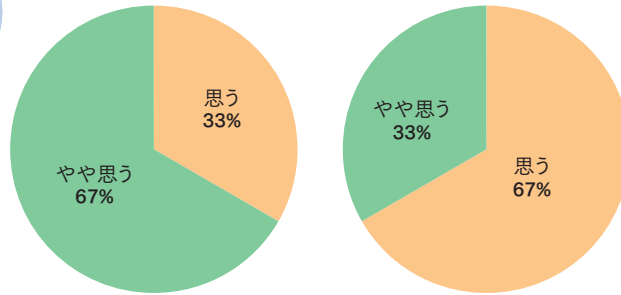
都市整備局  
復興まちづくり課  
佐藤 光啓

被災者への継続した心のケアや震災の経験と記憶を将来へどう語り継いでいくべきかということは、東日本大震災を経験した仙台市として真剣に向き合うべき課題ですが、参加された市民の皆様も、本市と同様のお考えだったことに、職員一同、非常に心強く感じました。昨今は全国的に大規模な災害が続いておりますが、次の災害への備えに少しでも役立てていただくため、本市はこれからも震災遺構荒浜小学校やせんだい3.11メモリアル交流館などを活用しながら、広く国内外に発信を続けてまいります。

## 参加者の主なご意見・ご感想



この政策は、  
目標を達成できたか  
と思いますか？



※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 12名

この政策は、  
私たちの暮らしや  
仙台の活力に貢献したと  
思いますか？

### 政策の達成状況や成果について

- 自分の知らないところで、市ではこんなにさまざまな活動を行っていたんだと改めてわかりました。
- 復興の政策に関しては、完了・ゴールというものはないと思います。ハード面での復興ということではかなり達成されており震災前の生活を取り戻しつつあると思いますが、これからは、被災地のメンタルケアなど、ソフト面でのサポートが続けて必要になってくると思います。
- 震災は年が経つにつれて忘れていくので、たとえば町内会の集まりがあったときは若い人たちに伝えて聞いてもらうのが良いと思います。震災のときは皆さんに心から心配していただいたことを忘れてはいけなかったと思います。
- 次の世代に伝えていくことが防災の基本になると思います。各地で異常気象による災害が起きているときに東日本大震災を思い起こすことが大切だと思います。
- 他の市町村と比較した場合、被災地が一部に限定されている仙台市は十分余力があったと思います。ガレキ処理などは非常に模範となる部分でもありましたが、インフラとは別に心のケアなど親身になった施策の充実もより必要だったと思います。
- 補助金、住宅、その他物資など物理的な面についての復興は完了したと感じました。残っている今後の対策についても、工事が完了すれば一応完了と言っていっていいと感じました。一番の課題は精神的なケアだと思います。目に見えない部分をどうするのか、やはり難しい問題なので今後も新しい施策が必要になると思います。
- 生活レベルの復興はなされたと思いますが、心のケアやコミュニティの問題はまだまだこれからだと思いました。

### 政策のこれからについて

- これからも被災した方々へのメンタルケアを続けてもらえればと思いました。また、地震が起きやすい日本全体で震災の経験を生かしてもらい、その機会を用いることで震災の記憶を風化させないということに繋げていけるのではないかと思います。海の堤防を明るく何かにできないかと思っています。
- 広報により、全市民が災害に対して常に意識をもてるようにしてほしいです。
- 沿岸部に人が集まる施策を推進してほしいです。東部エリアのにぎわいづくりはまだまだこれからの課題だと思います。
- 話し合いの中で将来に伝えることが大切との意見が出ました。後世に正しく伝えるために、新しい技術であるVR等で体験できるようなものがあれば、しっかり伝わるのではと思いました。
- 復興に対して受動的な人にも歩み寄った政策が必要だと思いました。知ろうとする人、参加しようとする人にしか伝わりにくい取り組みも多いので、頻繁な避難訓練をまちをあげて行うなどするのがよいと思います。
- これからは、やはり震災の記憶を伝えていくことが特に大きな鍵を握って行くと思います。震災遺構の保存やメモリアル交流館の運営にこれからも力を入れていただきたいと思います。
- 忘れてしまったほうがいいこともあるが、震災があったという事は忘れてはいけない事なので、これから10年、20年先の人にもこんなことがあったということは日本だけではなく世界に残さないといけないと思います。そのために、震災を体験した自分たちが伝えて行かないと、残していかないとだめだと思いました。

# 子どもの学び

社会経済状況の変化が激しい中、子どもたちが社会でたくましく生きていくための力の育成が求められています。地域ぐるみで子どもたちにたくましく生きる力を育むための仙台版キャリア教育「仙台自分づくり教育」について話し合いました。



**仙台自分づくり教育**  
(仙台版キャリア教育)

仕事や勉強の準備... 自信なくないですか...  
●本市の子どもは・・・？

対人関係能力が弱い 授業の目標理解が弱い  
自己肯定感が弱い 失敗を怖がる  
他人の目や違いが気になる 失敗して

**職場体験活動(H17～)**  
市内全ての中学2年生が、3～5日間実施  
13年間で8万人の中学生が体験  
受け入れて頂いている事業所は2,697件

**5日間の職場体験活動**  
リサイクル業・サイコー  
西山中学校2年生

活動の5日目  
「これからは身に付けなければならぬ能力は？」(活動後の振り返り)  
1位 コミュニケーション能力  
2位 礼儀等の基本的マナー  
3位 教材の学力  
4位 精神力  
5位 健康と体力

考える4日目  
シートでこれまでの活動を振り返り、仕事をする覚悟を考えました。

慣れる3日目  
志願を記入していたビコーショップを訪問します。

考える2日目  
トラックに乗って 営業現場に出勤！

体験の1日目  
社員の皆さんの前で挨拶、緊張の瞬間です。

【仙台自分づくり教育 アワード】

**たくましく生きる力育成プログラム(H21～)**

**みつめる力** 小学2年生「自分のいいところ探し」  
くわゆる「3学期の運動会」の準備が近づくと、自分のいいところを探し、友達に伝える活動を行いました。

**かかわる力** 中学1年生「さわやかなひとづき」  
ひっそり 受け受け さわやか  
何と違う？ 受け受け さわやか  
【たくましく生きる力育成プログラム】仙台市の・・・

**仙台子ども体験プラザ(H26～)**  
市内すべての小中学校で実施  
これまで 小学生2,074人、中学生2,000人が体験  
23の企業・事業所が協賛  
企業ボランティア・保護者ボランティアの協力

1ヶ月の生活設計  
FINANCE Park  
お金の勉強 100円、500円、1,000円  
お金の使い道 子どもの1週間(1週間) 月収 100,000円  
生活は分岐？ 生活費？ 夢は？ 子どもには必要？  
自分が大切にしたい価値観に気が付く。将来のために「今できること」は何かを考える。  
3月22日(金) 中学3年生

## 話し合いを終えて

### ファシリテーターから



アナウンサー  
朗読家  
渡辺 祥子氏

紹介された実践事例について、参加者からは評価の声と共に、せっかくな実践も、それを普段の授業や生活とどう関連づけるか～日常の学校生活や授業に落とし込む教員の能力を高める必要性や、家庭や地域でのフォローの大切さなど～良き取り組みを如何に未来につなげていくかの実りある話し合いが出来ました。また、「発言がどのように市政にいかされていくか見守っていききたい」、「自分に出来る事はしていききたい」など積極的な姿勢を示して下さり、とても心強く感じました。

### 担当職員から

教育局  
学びの連携推進室

田辺 泰宏

教育局  
学びの連携推進室

丸山 淳

教育局  
学びの連携推進室

松岡 健

教育局  
学びの連携推進室

馬場 早苗

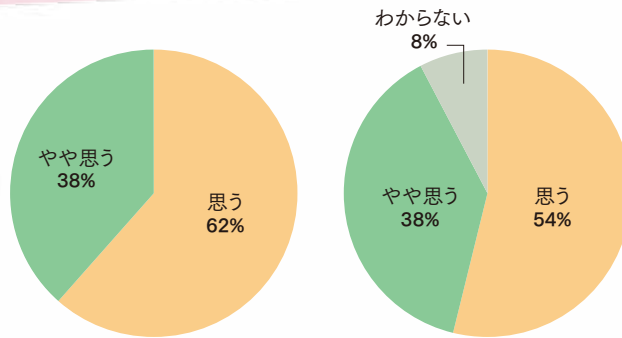
参加された皆様からは、「仙台自分づくり教育」における子どもたちの学びや育ちについて、幅広いご意見をいただきました。本事業が子どもたちの将来への目標意識に対する向上につながっているなど、一定の評価をいただいた一方、教育環境整備や教員の資質向上、地域との更なる連携が必要であるとの課題も見えてまいりました。今後、より一層、子どもたちが人との関わりを大切にしながら、社会人として必要な勤労観や職業観を養い、時代の変化を受け止め、未来を切り拓いていく力を育ててまいります。

## 参加者の主なご意見・ご感想



この政策は、  
目標を達成できたと  
思いますか？

この政策は、  
私たちのくらしや  
仙台の活気に貢献したと  
思いますか？



※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 13名

### 政策の達成状況や成果について

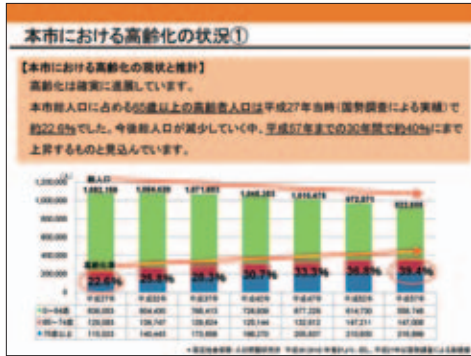
- 自分の子どもが中学3年生であるにもかかわらず、このような政策のことを知りませんでした。市や学校だけに頼らず自分自身ももっと子どもと向き合うことが大切だと思いました。
- 子どもが通園している保育所にも中学生が職場体験に来ていたのを見ていたので、頑張ってもらいたいし、続けてほしいことだと思います。
- 政策により、市が直接的に子どもを育てていくには限界があると捉えています。そのため、教員・保護者の教育が要になるのではないかと感じました。教員の育成・保護者と教員の関係に対するフォローが市として取り組める効果性の高い事項なのではないかと思います。
- 子ども体験プラザはぜひ子どもに体験させたいと思いました。1回きりでなく、やったことの経験を活かして2回・3回とできたらより学びが深くなるのでは。「たくましく生きる力育成プログラム」については、今の子どもたちには積極的にやってほしいです。
- これらを学んだ人たちが就職してどういう結果がでるか。子どもは遊びで学ぶことがあるので遊び場を増やすのはどうか。大人(保護者)もファイナンスパークとかをやらせる(見せる)のはどうか。
- 実際にお子さんが体験された方の話を聞くことができ、職場体験や体験プラザの内容、達成感等が充実していることを知りました。意欲や自己肯定感、生きる目標等を育むうえでとても良い政策だと思いました。

### 政策のこれからについて

- たくましく生きる力育成プログラムについては、保育所、幼稚園でも取り組んでもらうのはどうでしょうか。学校、親、子ども相互の関係が密になるように考えてほしいと思うし、地域のおじいちゃん、おばあちゃんの力をもっとたくさん活用できるように施策を考えてほしいと思いました。
- 地域、社会と連携して子どもたちの夢をかなえることができるように、もっともっとボランティアを利用したり、企業を利用したりして発展してほしいと思います。子供たちの学ぶ意味、学ぶ意欲を応援したいです。
- 中学生でやる職場体験をもう1つ増やした方が視野が広がるのではないのでしょうか。他の市を手本にして子どもの学びを広げたり、職場体験に投票を取り入れたりするのはどうでしょうか。
- まちづくりや政治の意識を高めるために、「仙台市は子育てで日本一を目指す」と宣言するのもいいと思います。
- せっかく地元企業に協力していただくので、地域への愛着をより持たせられるようにすると良いし、保護者も一緒に子どもの学びに関われるよう、学校からの発信が増えると良いと思います。
- 小6でスチューデントシティ、中1で校外学習、中2で野外活動・職業体験、中3でファイナンスパークと各々がうまく連携していくと、もっとよい成果が上がると思います。子どもたちが目を輝かせて体験できるものが多くあると思います。

# 高齢者

高齢者が、健康で生きがいを感じながら社会を支え続けるとともに、支援が必要になっても地域で安心して暮らすことができる社会の実現に向けた取り組み(市民一人ひとりの取り組みやみんなで支え合う取り組み)等について話し合いました。



### 現在の施策の取組状況

仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成30年度～平成32年度)

【基本目標】  
 高齢者がその尊厳を保ち、健康で生きがいを感じながら、社会を支え続けるとともに、支援が必要になっても地域で安心して暮らすことができる社会の実現

【施策の体系(目標)】  
 ○ 健康と元気でいられる環境づくり  
 ○ 知識・経験や能力を生かして活躍し続けられる機会の充実  
 ○ 地域の資源やつながり、専門職の連携を生かした地域の支え合いへの支援

↓

◎ 市民一人ひとりの取組を促すこと  
 【事例1】介護予防に積極的に取り組める環境づくり  
 【事例2】活躍し続けられる機会の充実  
 ◎ みんなで支え合う取組について  
 【事例3】地域の見守りや支え合い活動の充実

※ 具体的な取組事例を次ページ以降で紹介します

## 話し合いを終えて

### ファシリテーターから



第一印象研究所  
代表 / 研修講師

杉浦 永子氏

日本が抱える高齢化問題。今後は「健康寿命」を延ばし、高齢者のお一人お一人が生きがいを感じながら過ごせることが大切だと感じました。市民の皆様との話し合いですが、年代別、男女の違いで同じテーマでもリアルな発言、貴重な提案などが飛び交い、活発なやり取りができました。仙台市では、様々な取り組みがされており認知度を更にする工夫と市民も今回の参加者のように積極的に地域と関わり、「主体性のある市民」が増えることが高齢化問題の緩和に繋がるのではないのでしょうか。

### 担当職員から

健康福祉局  
高齢企画課

尾形 英俊

健康福祉局  
高齢企画課

古瀬 直人

健康福祉局  
地域包括ケア推進課

大村 悠子

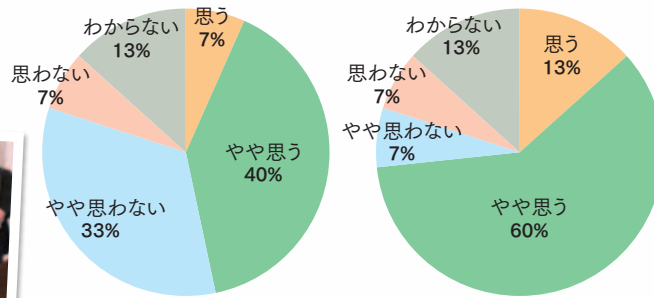
様々な世代の方が一堂に会し意見交換することで、お互い新たな発見や課題を共有することができたのではないかと感じています。本市の取り組み事例として「介護予防の取り組み」や「高齢者の就労支援」、「地域での支え合い活動」をご紹介しましたが、いずれも情報の集約と発信が重要で、普段から誰もが身近に感じられるよう普及啓発に力を入れるべきとの意見が印象的でした。いただいたご意見は、今後の施策展開に活かしてまいります。



## 参加者の主なご意見・ご感想



この政策は、  
目標を達成できたと  
思いますか？



※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 15名

この政策は、  
私たちのくらしや  
仙台の活力に貢献したと  
思いますか？

### 政策の達成状況や成果について

- 高齢者の仕事への意欲や就労の有無については、数値を見る限りでは成果は顕著とは思えません。高齢者人口に対して、介護予防自主グループ活動の数やサポーター数はまだまだ足りないと思います。
- 地域の支え合いをする上で中心となる場所、団体の情報を集約した方が良いと思います。シニア就労について、情報を集約してわかりやすくすると良いと思いました。
- 私自身の問題意識が低いのか、情報が十分に伝わり切れていないと思います。さまざまな施策が講じられているのに分からないし、手がかりがつかめません。第一歩の手がかりがあるとつながっていけるように思います。
- 要介護等認定から施設の利用にはスムーズに結び付いているのでしょうか。昔よりはよくなっているのでしょうか。町内会も年々活動が少なくなっているように感じます。
- いろいろな政策は行っているが、その反応はどうなっているのかと思いました。障害のある人や介護が必要な人へしっかりとサービスが届くような仕組みが必要だと思いました。
- 人口減少に伴うスーパーなどの撤退を心配しており、買い物難民になることに不安があります。終の棲家をどこにするか不安視する世帯が増えており、各種施設の利用選択の目安情報が少ないと思います。

### 政策のこれからについて

- 高齢男性の地域サークル・ボランティアなどへの参加呼びかけや、高齢者のお祝い会などへの積極的な参加促進が必要だと思います。
- 高齢者が老いを受け止めることにも目を向けて、健康寿命を延ばすための動機づけも必要だと感じました。高齢者の心理にも目を向けてみないと空回りしそうな気がします。
- 高齢者の就労意欲をもっと高めていく政策を考えていただきたいです。それが健康寿命を延ばしていくことにもつながると思います。また、介護事業所と地域とのつながりをサポートしていただけるような政策を考えていただきたいと思います。
- 地域のつながりやシニアの就労について、中心となるところを明確にし、情報を集約すると、協力する側、される側が分かりやすくなると思います。総合事業の該当者については、判断基準を明確にするとわかりやすくなると思います。
- 地域ぐるみの活動などを利用することで、出無精の方を社会に出して元気に動いてもらうことにつながれると思います。情報をもっと早く知りたいです。
- 地域がメインになって家にこもりがちな高齢者を外へ連れ出すためには、紙以外での媒体でも情報を流すことが必要だと思います。介護経験者が、これから介護が必要になる方へ伝授するような機会を設けるのもいいと思います。

# 子育て支援

仙台市では、待機児童の解消に向けた取り組み(保育所の整備、保育士確保支援等)を進めるとともに、多様な保育サービス(延長保育、一時預かり、休日保育等)の充実にも力を入れています。ニーズの多様化や複雑化を踏まえた保育サービスのあり方について話し合いました。



**多様な保育サービス**

- 一時預かり
  - ・急な行事や短時間のパートタイム就労のほか、リフレッシュしたい時などに、保育所などの施設や地域子育て支援拠点などで子どもを預かります。
  - 【一時預かりを実施している保育施設等の数(各年度4月1日時点)】

平成28年度	平成29年度	平成30年度
79	93	101
- 延長保育
  - ・保護者の就労形態の多様化に柔軟に対応した保育を行うため通常の保育時間の前後において延長保育を実施しています。
  - ・施設によっては、開所時間から2時間以上の延長保育を行っている施設もあります。
  - 【2時間以上の延長保育を実施している保育所及び認定こども園の数(各年度4月1日時点)】

平成28年度	平成29年度	平成30年度
53	60	68
- 休日保育
  - ・日曜や祝日等に保護者の就労等により、家庭における保育が困難となるお子さんを対象とした休日保育を実施しています。
  - ・実施施設の数は平成27年度以降7園で推移していますが、利用者は増加傾向にあります。
  - 【休日保育所へ利用者数の推移】

平成27年度	平成28年度	平成29年度
4,606	5,369	4,964

## 話し合いを終えて

### ファシリテーターから



特定非営利活動法人  
せんだいファミリーサポート・  
ネットワーク理事

三浦 三恵子氏

子育て支援の環境は近年、大きく変化してきていると感じています。待機児童の解消の取り組みや、保育サービスの充実などについては期待も多く、様々な意見がありました。保育士不足解消の取り組みに対しては、保育士の地位向上を求める声も上がっていました。自分や周りの状況から見えてくる話もあり、子育て支援に携わる者としても、参加した皆さんとの時間はとても有意義なものでした。

### 担当職員から

子供未来局  
環境整備課

大平 浩輝

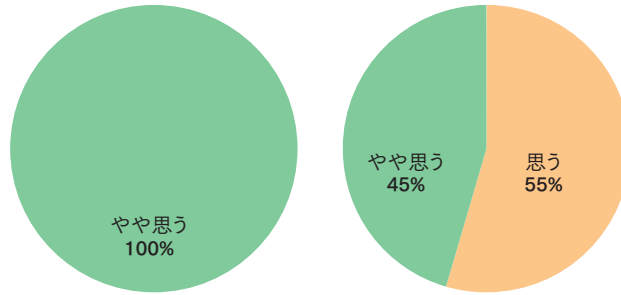
子供未来局  
認定給付課

宮内 航平

実際にご自身やご家族が子育て中の方々を中心にご参加いただき、利用者側のみならず、保育事業者や保育士の先生等の様々な立場からの意見も多く発信され、活発な議論となりました。待機児童解消に向けた施設整備実績や計画については一定の評価を頂いた一方で、多様化する保育ニーズに対応するための施策については、さらなるサービスの拡充が求められていると感じました。今回頂いたご意見を参考に、今後も取り組みを進めてまいります。

## 参加者の主なご意見・ご感想

この政策は、  
目標を達成できた  
と思いますか？



※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 11名

この政策は、  
私たちのくらしや  
仙台の活力に貢献したと  
思いますか？

### 政策の達成状況や成果について

- 待機児童が減るペースが素晴らしい。待機児童ゼロに向けて園や保育士増に対する意識の高さを感じます。
- 待機児童数が仙台は他のところに比べて多めだったが、減ってきていることが分かりました。実際に子どもがいる人の話や、元保育士さんの話を聞くことができ参考になりました。
- 年々、保育施設の定員数が増えているのは良いと思います。0～2歳児を対象とした小規模保育事業をぜひ実現させてほしいです。一時預かりや休日保育の実施も良いと思います。
- 女性の就業や働き方、ライフスタイルの多様化に合わせて、とても柔軟に対応できていると感じました。
- 待機児童の状況は成果が感じられるが、病児保育はもう少し頑張してほしいと思います。
- 待機児童の改善(時系列的な減少)や保育園等の増加は評価できると思います。
- 思っていた以上に待機児童が減っていました。認定こども園が増えて良かったと思います。
- 目標設定は良いと思いました。ただし、保育士の増員は待遇の改善が必要であると思うので、より具体的で実行力のある活動の展開を期待します。
- 保育施設の利用ニーズが増える中、待機児童数が減ってきていることは評価できると思いました。

### 政策のこれからについて

- 保育士の給与面・待遇面の大幅改善については仙台市だけの問題ではないので、国にかけあうのが必要だと思います。病児、病後児保育や事業所内保育についても増やしていく必要があると思いました。
- 保育士の待遇改善では、市のレベルでできることは限られていると思うが、賃金以外の改善も必要だと思います。保育所を利用しない子育て女性のために、ぜひ託児付きコワーキングスペースを設置してほしいです。
- 保育所の数が地域によって偏っているというが、ぜひ地域のニーズに合った保育所の数にしてほしいです。保育士さんへの補助(支援)があるということですが、保育士さんが安心して働けるような支援をしてほしいです。病気になった子ども一時預かる保育所の数が増えると良いですね。
- 住民の人数変動要因を事前に確認し、それを見越した増員計画を立ててほしいです。保育士の更なる待遇改善により、保育士を増員してほしいです。
- 各施設が利用者のニーズに合わせて多様化したことに伴い、制度が複雑化しており分かりにくい印象です。文科省等の管轄の違いはあるかと思いますが、利用者にはその違いは重要ではなく、仙台市として分かりやすく制度を周知していただきたいです。
- 保育士の方の労働環境の改善に関しては以前から取り上げられていますが、数千円程度の改善では保育士の方は大変だと思います。保育士の方にも生活があるので早急な改善を求めたいです。

# 低炭素都市づくり

近年頻発している異常気象や自然災害は、地球温暖化がもたらす気候変動がその要因とも言われており、温室効果ガスの抑制対策は喫緊の課題となっています。省資源でエネルギー効率の高い「低炭素都市」の実現に向け、身近な生活の中で実践できる省エネ等の取り組みについて話し合いました。



## 話し合いを終えて

### ファシリテーターから



株式会社  
エフエム仙台

奥口 文結氏

「低炭素社会づくり」という壮大なテーマに対し、普段お一人おひとりが環境に対して思っていること、日常生活で実践されていることを自由に付箋に書き出しいただきました。皆でシェアしてみると、意外と気づかなかった課題や、今すぐ実践できそうなアイデアが沢山。小さなアイデアの種を共有し、少しずつ積み重ねていくことで、地球にも私たちにも心地よい社会に近づいていくことを実感する時間となりました。

### 担当職員から

環境局  
環境企画課

千葉 恵子

環境局  
環境共生課

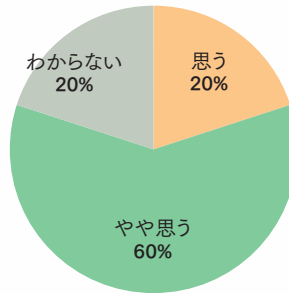
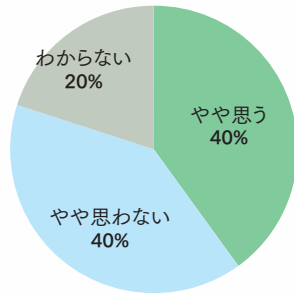
佐々木 政道

省資源でエネルギー効率の高い「低炭素都市」の実現に向け、一人ひとりができることは何かについて、幅広い年代の方々と話し合いました。参加者の皆さまからは、「そもそも地球温暖化の仕組みが難しくよく分からない」「省エネが温室効果ガスの排出抑制につながることを初めて知った」との声も聞かれ、市民の皆さまに届く普及啓発の重要性を改めて実感しました。今回いただいたご意見も踏まえ、幅広い地球温暖化対策の推進に取り組んでまいります。

## 参加者の主なご意見・ご感想



この政策は、  
目標を達成できた  
と思いますか？



※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 10名

この政策は、  
私たちのくらしや  
仙台の活力に貢献したと  
思いますか？

### この政策の達成状況や成果について

- 目標数値をわかりやすくカンタンに提示してほしいと思います。
- 仙台市の温室効果ガス排出量の削減目標を達成するために、市民ひとりひとりがどれくらい削減したらよいのか、分かりやすく情報発信していくべきだと思います。温室効果ガス排出量が大きすぎて分かりにくいと思いました。
- "減らす"視点での政策は多く挙げられていたが、例えば緑化のようなCO<sub>2</sub>吸収量を"増やす"という視点が比較的少ない印象を受けました。屋上緑化や街路樹植樹の更なる促進など、低炭素都市を実現する上でできることはまだあるように思います。
- 家庭で二重窓、蓄熱暖房機を採用することや、車での通勤をできるだけバスや地下鉄へ誘導することが重要だと思いました。
- 節電のキャンペーンを実施してその効果を公開することで節電を促している点や、学校での緑のカーテンの設置を促進している点がいいと思います。ただ、公共交通機関の利用を促してCO<sub>2</sub>を減らす、という点には改善の余地を感じます。
- 環境についての情報をたくさん持っている方のノウハウをとにかく市民にたくさん広げ、わかりやすい数値目標を共有することが重要だと思いました。

### この政策のこれからについて

- 市政だけでなく、さまざまな機会を作って市民に知ってもらうことが必要だと思います。
- できることからする、ということはわかったのですが、なにをしていいかわからない方が多いように思います。イベントなどを行っているようなので、まずは現状を知っていただき、イベントを活用することで、1人でも多くの市民がエネルギーを余計に使わない生活ができるようになると思います。学校などを通じて、子どものころからエネルギーを使わないよう心がけることが、仙台市の今後にとって、とても良いことにつながると思いました。
- 知る機会を増やすことや、習慣化(ゴミの分別、節電、リサイクル等)させるような取り組みを国や自治体でする必要があると思います。まずは、身近なものだと感じさせる資料と知る機会を作ることが大事だと思います。
- 参加型のイベントをもっと増やして楽しく参加できる仕組みづくりをしていただきたいです。
- 無理のない範囲でいいのですが、もう少し市民がバスや地下鉄を利用しやすい環境を作っていただいた方がいいかと思います。
- 政策を市民に広く伝える、例えば市政だより等のさらなる活用が必要だと思います。
- 仙台市が省エネ設備の導入を支援していることを、もっとPRしてほしいです。

# 地下鉄東西線の開業

持続的なまちづくりに向けて進めてきた地下鉄東西線整備とバス路線の再編や、使いやすい運賃制度、沿線まちづくり、市民協働による取組み等を対象とし、その効果や影響について話し合いました。



## 話し合いを終えて

### ファシリテーターから



東北の未来株式会社  
代表取締役

平真 ゆきこ氏

高校生からご高齢の方まで、様々な視点からのご意見を頂く事が出来ました。中でも多かったのは、地下鉄駅構内の表示について、バスと地下鉄との連携について、JRと地下鉄との連携についてです。課題だけではなく、未来像や具体的なアイデアも出して頂き有意義なディスカッションとなりました。このような機会を多く設ける事で、市民の皆様の意識が変わり、行動が変わり、市民協働で仙台市が目指すまちづくりが出来るのではないかと実感しました。

### 担当職員から

都市整備局  
交通政策課

坂 尚哉

都市整備局  
公共交通推進課

佐藤 雅和

都市整備局  
地下鉄沿線まちづくり課

繁名 翔太

交通局  
経営企画課

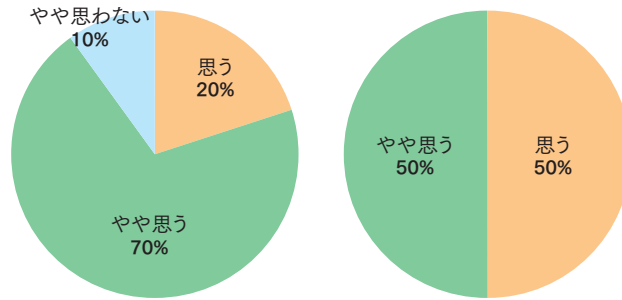
高橋 美紀

今回のフォーラムは本市が目指すまちづくりについて発信する貴重な経験となりました。ご参加いただいた方々からも「もっと東西線を利用しようと思った」との感想を頂き、皆様に関心を持っていただく良い機会になりました。  
また公共交通機関について市からの情報提供不足や利用促進に資する提案など、貴重な意見を頂きました。頂いたご意見を参考に、公共交通の利用促進施策や沿線地域の方々、企業・団体など民間との連携による沿線まちづくり施策を推進してまいります。

## 参加者の主なご意見・ご感想



この政策は、  
目標を達成できた  
と思いますか？



※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 10名

この政策は、  
私たちのくらしや  
仙台の活力に貢献したと  
思いますか？



### 政策の達成状況や成果について

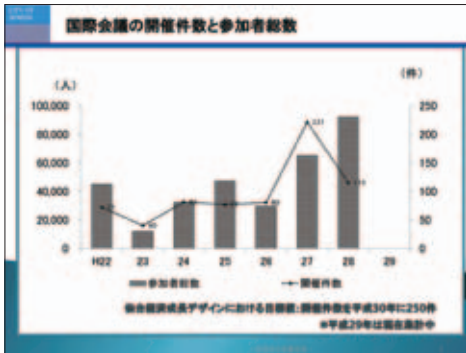
- 東西線が開通してとても便利になりました。バスや他の乗り物にくらべて時間通りに来るので安心して利用できます。もっと表示をわかりやすくしてほしいところです。
- 地下鉄は定時性、速達性に優れたポテンシャルのあるインフラだと思います。中心市街地でのバス路線との競合は気になるところです。
- 仙台市における交通の核となる地下鉄にいかに利便性をもたせるかが第一だと思うので、今後のなりゆきに注目したいです。
- 東西線を使いやすくする政策は補助的なものだと思います。あまり市が動かなくても使いたい人は使うと思います。
- 運行範囲の拡大をしたり、運行時間の延長をしてくれるとうれしいです。
- 地下鉄があること自体ありがたいと思います。荒井のまちの発展規模が大きく広いので、「機能集約型まちづくり」といえるか疑問を感じます。
- 昼間の利用者が少ない点は大きな問題だなあと感じました。また、バスとの乗り換えがやや不便なことも問題だと思います。
- 利用者拡大に向けて様々な視点(運賃、ハード、運行形態)について課題が多いことがわかりました。
- 若い方のアイデアに感心しました。将来に向けた明るい地下鉄活用に取り組んでほしいです。

### 政策のこれからについて

- イベントや駅ごとの特色を増やして乗車率を上げることが必要だと思いました。
- 公共交通が中心となるまちの将来像を市民に意識してもらうことが大事だと思いました。
- 沿線の市民だけでなく、多くの市民に利用してもらうための運賃などの見直し、イベントの開催が必要だと思います。
- 仕事(職場)・学業(学校)を地下鉄沿線に確保することが重要ではないでしょうか。
- イベントと連携して町の活性化の中心にしていくと、もっと利用されるようになると思います。
- JRとの連携強化をするのはどうでしょうか。建設的にそのまちの特色を色濃くしていくことも必要だと思います。
- 今まで利用していない人が実際に乗るような施策が必要だと思います。交流人口拡大に向けた取り組みとの連携も視野に入れてみていいのではないのでしょうか。
- 地下鉄の情報がつまったスマホアプリがほしいです。
- 市民の多くの方の意見を取り入れてまちづくりを進めてほしいです。

# 交流人口拡大

仙台の魅力を上向きさせ、交流人口の拡大を図ることを目的に取り組んできた、国内外からの仙台への観光客の誘致や国際会議などのコンベンション誘致、東北全体の魅力発信・広域観光の推進について話し合いました。



## 話し合いを終えて

### ファシリテーターから



有限会社  
マイティー千葉重  
代表取締役

千葉 大貴氏

仙台市の政策評価については「なぜ交流人口を増やす必要があるのか」、「国際会議を開催する意義」については市民の方にはなじみがうすく、改めて説明を行う必要がありました。交流人口を増やすための意見交換では世代によって意見が分かれる傾向がありました。50代以降の方々は仙台市の観光の魅力に熱弁するのに対し、30代前後のとくに地元出身者は「仙台市には目に見えるような魅力的な観光資源がないので、発掘が必要ではないか」という意見が多かったのが印象的でした。

### 担当職員から

文化観光局  
交流企画課

川口 順弘

文化観光局  
交流企画課

大澤 祐人

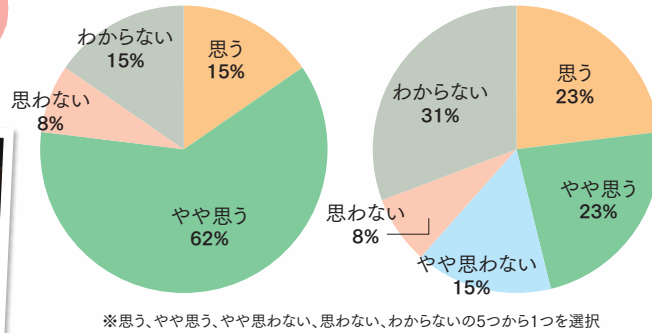
交流人口拡大について関心をお持ちの方が多く、活発に議論が行われていたことが印象的でした。特に、どうしたら交流人口を拡大できるかという点について、新しい魅力を発掘していくべきということや、今ある魅力の発信をもっと積極的に行うべきということなど、参加された方ごとの視点からご意見をいただき、多くの方々のお話を伺う必要性を再認識しました。今回の議論も踏まえて、新しい戦略の策定をはじめ、交流人口拡大の取り組みを進めてまいります。



## 参加者の主なご意見・ご感想



この政策は、  
目標を達成できたと  
思いますか？



※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 13名

この政策は、  
私たちのくらしや  
仙台の活力に貢献したと  
思いますか？

### 政策の達成状況や成果について

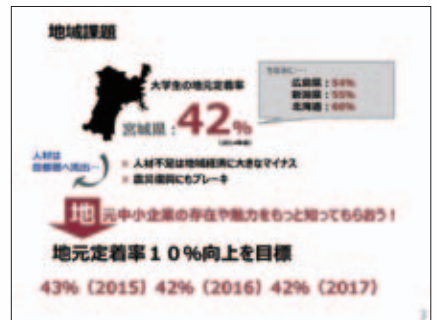
- 外国人観光者へのPR等については観光者数も増加しているため、このまま続けていただければと思います。仙台の観光PRという点に関しては魅力の創出が重点課題と感じました。
- 仙台市内の活用していない地域があるのではないのでしょうか。体験型観光のためには、仙台市内の限界集落まで市内の資源ととらえて、分かりやすいもの、利用しやすいものばかりを観光資源、交流資源にはいけないと思います。
- 観光客が頭打ちになっているのではないかと感じました。観光地へ求めるニーズの多様化に合わせた様々なコンテンツの"発信"を仙台市として行ってほしいです。
- 目標に対する成果が数値化されていて分かりやすいですが、数値では見えない実態としての満足度調査もあるとよいです。この分野は、カタカナが多くて分かり辛く、市民意識も低くなりがちだと思います。
- ターゲットを定めるなど戦略性を感じる政策であると思いました。東北の玄関口として通過点ではなく立ち寄ってもらえるようにすると良いと思います。
- 多くの観光が生まれる場所には、多くのエネルギーも生まれると思います。しかし、仙台人がもっとフレンドリーに、そしてOpen armsで進んで行くべきだと思います。
- 海外や県外からのお客様が増え、目標を達成している事はとても素晴らしいと思いました。現在、消費を増やすうえで海外のお客様、コンベンションに力を入れることが重要だというのは興味深かったです。

### 政策のこれからについて

- 体験プログラム創出はとても良いと思います。SNSなども活用しながら多くの人に情報が届く仕組みづくりをしてもらいたいです。
- 交流人口拡大の目的が経済増なら、観光よりも住みやすい仙台まちづくりに力を入れてもよいのではないかと思います(仙台は住みたい町全国上位なので)。新しい戦略における重点プロジェクト「日本一の体験プログラム創出」は良いと思います。仙台といたらこれというものがもっと欲しいです。
- インバウンド客に向けて、官の施設だけでなく、民間の施設(宿泊・飲食)の英語、外国人対応を充実させるとよいと思う。
- 特にインバウンド推進に対して空港や案内所、各観光地での言語対応をより充実させるべきではないのでしょうか。仙台=東北の玄関口として、東北各地の観光地や名所等へスムーズにつなぐ、又は興味関心に合わせてツアー等を紹介する機能を充実させてほしいです。
- プロスポーツ、アウェーチームのファン・サポーターの誘致や、来やすい来たいと思う交通手段等の連携が必要だと思います。仙台市のみならず、他市町村、さらには東北各県との協力連携が重要だと思います。
- 仙台市や宮城県に関連した作品、作家、等歴史の中を切り取りアプローチしてほしいです。交通機関と連携し、細かいところを拡大して広告して行ってほしいです。
- 閑散期の取り組みが重要であると感じました。民間企業も巻き組みながら国内旅行者、コンベンション企画者、それぞれの立場に立った視線でアピールをしていくと良いのではないのでしょうか。

# 若者定着・仕事

若者の仙台・東北への定着を目指して取り組んできた学生等若者向け教育プログラム等によるIT人材育成事業や、首都圏等から人材を呼び込むUIJターン促進の取り組みについて話し合いました。



**地元定着＝地元就職・定着に向けた取り組み**

**就職支援**  
大学生向けに地元企業情報を発信する「地元企業魅力発信事業」、キャリアコンサルティングセンターシップ等の「地元就職支援事業」、卒業生で地元企業に就職を勧め、応援に呼び込む「UIJターン就職促進事業」を実施しています。

**グローバルラボ仙台 (GLS)**  
仙台市とフィンランド・オウロウとの産学官連携に基づき、輸出・買込に特化した産業を創出するための場としたコンソーシアムです。地域企業・教育機関・自治体が連携して活動しています。

**企業誘致**  
仙台に定住の機会を求めて集まった若者や、地元の中で自身の能力を活かせる事業創出の機会など、まちの活力の源泉となる人材の集約の場となるソフトウェア産業が研究開発施設など、次世代の産業の中核となるIT企業を中心とした誘致に取り組んでいます。

**地元企業の魅力発信**

就職先の選択として地元企業を認識してもらうための取組みを推進  
就職体やWebによる就職情報に加え、研究者と学生が交流する機会を創出  
学生の就職先決定に影響を及ぼす保護者へもアプローチ

**地元企業の魅力発信** | **地元就職支援** | **UIJターン就職促進**

大学生向けに地元企業情報を発信  
地元企業魅力発信事業  
就職体やWebによる就職情報に加え、研究者と学生が交流する機会を創出  
学生の就職先決定に影響を及ぼす保護者へもアプローチ

キャリアコンサルティングセンターシップ  
インターンシップ  
企業説明会  
就職体やWebによる就職情報

## 話し合いを終えて

### ファシリテーターから



株式会社  
アフターリクルーティング  
代表取締役  
**池谷 昌之氏**

学生・主婦・高齢者まで幅広い年齢層の方々に参加していただき、様々な体験談を踏まえて大変生々しい議論が展開されました。報告された事業に関しては参加者ほぼ全員初めて聞いた内容のようでしたが、高く評価している意見が多かったです。一方でこのような取り組みについてもっと発信すべきだという意見も数多く出されました。今後現在の事業をより強く推進するとともに、この活動自体に市民をどう巻き込んでいくのかについても併せて検討していく必要性を感じました。

### 担当職員から

経済局  
地域産業支援課

**熊谷 貴史**

経済局  
産業振興課

**高橋 大喜**

経済局  
企業立地課

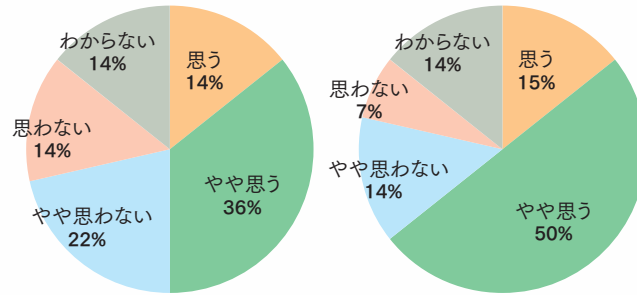
**茗荷谷 義典**

参加者の皆様と活発な意見交換ができ充実したテーブルトークになりました。地元企業魅力発信事業やグローバルラボ仙台の取り組み、本市がIT企業の誘致に力を入れていることなど、それぞれの取組みにご賛同をいただいたほか、情報発信が不足しているという課題もご指摘いただきました。頂戴した様々なご意見を参考に、積極的な情報発信に努めながら、「仙台で働きたい!」と思ってもらえるよう、若者定着促進の取り組みを進めてまいります。

## 参加者の主なご意見・ご感想



この政策は、  
目標を達成できたと  
思いますか？



※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 14名

この政策は、  
私たちのくらしや  
仙台の活力に貢献したと  
思いますか？

### 政策の達成状況や成果について

- 大学生、高校生に発信してほしいです。そのためには、発信方法を考えなければならないのではないのでしょうか。
- IT産業の集積、雇用創出の取り組みは評価します。一次産業などの若者定着についての政策等も知りたいです。
- 知っている人しか知らない情報(グローバルラボ仙台の活動など)があり、もっと幅広く情報を発信すると良いと思います。IT業界を目指す人にはとても良い政策と思いました。IT業界以外にもこういったものはないのかな?と思いました。
- ITに注力するなら、その方針ですすめていいと思います。仙台にいたいと思う若い人の数にもどうしてもかかってくるので、東京の下位互換ではない仙台ならではの魅力がどうしても必要です。それを仕事の面でどう作るかが鍵になると思います。
- IT関係の誘致など積極的に取り組まれている事が初めてわかりました。ですが、IT関係以外の仕事に関しても仙台市が力を入れて取り組んでいただければ、若者の県外流出や仕事の定着につながると感じました。色々な形で情報発信をしていければ、より多くの方が情報を手にすることができるので、是非試していただきたいです。
- せっかく、とても良い政策を行っているのに、それが伝わっていないために効果が出ていないのではないかと思います。今日知ることができたことは、職場の大学生や子どもたち、保護者様にも伝えていきます!
- IT企業を誘致していることを初めて知りました。IT企業は理系学生だけの職場ではないこと、仙台にもいい企業がたくさんあることを初めて知りました。私の大学の人は「東北大学を出てまでする仕事は東北にない」と言って、関東・首都圏に出る人ばかりです。ただ知らないだけなのかもしれないと思いました。

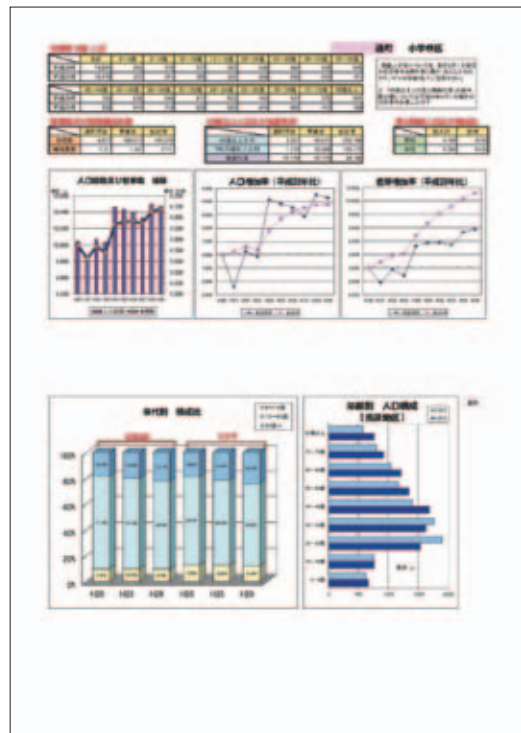
### 政策のこれからについて

- 地元企業の魅力を発信する「WISE」の製作にあたり、仙台市・宮城県の企業から協賛金をいただいてページ数を増やし、多くの方に配布してほしいです。
- 情報発信では、仙台の良さや仙台だとこんなことができるというアピールをすると良いと思います。たとえば首都圏だと下積みからだけど仙台だとすぐに戦力としてくれる!とか、そういうアピールができると良いと思います。
- 地元の経営者の意識改革をしていくことが必要だと思います。仙台は住みよいといわれているので、もっとアピールすべきだと思います。
- アイデアソンとかを増やせば学生は集まると思います。人事部門がない中小企業も多いのでインターンで、学生を集めて学生が発表する場を設けるといいと思います。
- 若者を定着させるには、「東北は都会ではない」というイメージをなくさないといけないと思います。
- 進路・就職指導に関わる教育関係者に向けた発信の工夫が必要だと思います。大学生へのヒアリングや県外へ出た人、県外から戻ってきた人へのヒアリングを通じた、リサーチや分析、対策を行うべきだと思います。
- 商工会議所との連携、協調が大切だと思います。通り一遍では成果が出ません。奮起を期待します。
- 高校生にアンケートを実施して、県内に就職するかどうか尋ね、Noならその理由を書いてもらい、そこにある問題を解決すればいいのではないのでしょうか? もっと地元企業とのふれあいの場を増やすべきだと思います。

# 地域特性に応じた地域づくり



少子高齢化が進むなかで、地域の課題はますます多様化・複雑化しており、地域の実情に応じたきめ細かな地域づくりが必要とされています。市民の暮らしの基盤である地域社会を安心・快適でより良いものにするための、市民協働による地域づくりについて話し合いました。



## 話し合いを終えて

### ファシリテーターから



株式会社ゆいネット  
代表取締役

稲葉 雅子氏

参加者の皆さん、お住まいも職業も年齢も仙台在住歴もバラバラでしたが、地域愛溢れる方々でした。地域に対して市がどんな取組みをしているのかももっと詳しく知りたい、地域側ができることや考えていることを市に伝えたい、現在モデル事業はどんな進捗なの？地域づくりの達成目標をもっとわかりやすくできないかしら？など、前向きな意見交換の場となりました。こういう場が、市民協働のまちづくりにつながるのだと実感した1日でした。

### 担当職員から

市民局  
地域政策課

八重畑 浩

市民局  
地域政策課

菅原 亜由

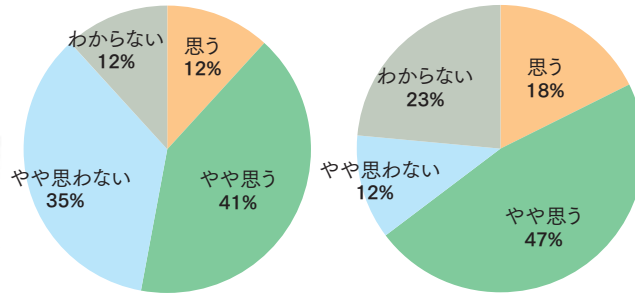
市民局  
市民協働推進課

阿部 智明

地域づくりに関わるこれまでの取組みについて、地域にお住まいの方から、事業者として地域に関わっている方まで様々な立場・年齢の方から多岐に渡るご意見をいただきました。なかでも「そもそもこんな事業をしているなんて知らなかった!」という声が多くあり、情報発信不足を痛感しました。どなたにも関係のある「暮らし」を支える地域づくりだからこそ、たくさんの方に関わっていただけるよう、今後も協働の視点を大切にしながら取組みを進めてまいります。

## 参加者の主なご意見・ご感想

この政策は、  
目標を達成できた  
と思いますか？



※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 17名

この政策は、  
私たちのくらしや  
仙台的の活力に貢献したと  
思いますか？

### 政策の達成状況や成果について

- 情報の発信の仕方や工夫が必要だと感じました。地域で行っているイベントをもっとアピールしてほしいです。
- 区民まつり等大きなイベントの取り組みは評価できるが、中学校区レベルでの生活圏内での地域づくりはこれからだと思います。参加したい人、やる気のある人が情報を得やすいように、地域情報ファイルを充実したり、担当職員の役割を明確化、推進することも必要だと思います。
- 仙台市で様々な政策(地域とのつながり)を行っていることを知りませんでした。せっかく素晴らしいはたらき、事業を行っているのもっと若者世帯などへ発信すべきだと思います。
- 荒巻包括ケアモデルの取り組みはスタートしただけでも立派だと思います。高齢化が仙台でも進む中、各区、各地域でこのような取り組みが進むと良いと思います。
- 区ごとに取り組んでいる事業とその進行状況が見えるようにしてほしいです。
- 「ふるさと支援担当職員」の配置と、具体的な泉区や青葉区の取り組みは地域の特性に合わせた内容となっていてよかったです。この事例により、自分たちの地域はどのような特性があるのかを考えるきっかけになるとと思います。
- 市民まちづくりの第一歩となる窓口の職員教育も大事だと思います。
- 市民協働などの方向性は正しいが、まだまだ浸透していない面があるのではないかと思います。

### 政策のこれからについて

- 地域づくりの中心となる場所をつくり、情報集約やよろず相談ができるといいと思います。その地域の市民が集まりやすい場所や、利便性のあるところで各団体が連携するイメージです。ショッピングセンターもいいかもしれません。
- 荒巻包括ケアモデル事業の子どもバージョンがあると良いと思います。子ども・若年層の政策を増やした方がいいのではないのでしょうか。また、高齢層と若年層のつながりがないのも気になります。町内会は参加しにくいルールが多い気がします(日曜朝早くに町内掃除を行うなど)。
- 制度自体を知らなかったので、情報発信の工夫が必要だと思います。対象者をしぼるというよりは、広く市民に知らせるために周知の方法も増やす必要があると思います。
- ウェブの有効活用をするなど積極性が必要ですが、同時に高齢化対策なども検討してほしいです。サロンの活動の活発化も必要なのではないでしょうか。地域ごとの共通課題を整理しながら、包括的な取り組みを組織的に展開することが必要なのではないかと思います。
- 住民の声を顕在化する仕組みがほしいです。住民同士で解決できる地域課題もあると思うので、小さな悩みを共有できる場があると良いと思います。
- 行政の組織としてWEBやSNSは扱いにくいツールかと思いますが、ITの導入はより一層強化していただければと思います。また、仙台七夕などの大きなイベントだけでなく、地域づくりにつながるイベントも必要だと思います。

# 地方分権・大都市制度



仙台市が政令指定都市に移行し30年が経ちます。この間、市民の皆様への行政サービス向上のため、地方分権の取組みを進めてきました。報道等で話題になっている大規模災害時の救助権限の移譲等を例に、地方分権や大都市制度について話し合いました。

テーマ① 仙台市が進める地方分権と大都市制度について

### はじめに

- 仙台市が、大規模災害時の救助権限を、国や都道府県から、市民の皆様への行政サービス向上のため、地方分権の取組みを進めてきました。
- この間、市民の皆様への行政サービス向上のため、地方分権の取組みを進めてきました。
- 最近、報道等で話題になっている「大規模災害時の救助権限」を宮城県から仙台市に移譲すること等を例に、地方分権や大都市制度について話し合いました。

### 仙台市の沿革

明治22年 宮城藩、仙台藩誕生<人口86,352人> ADRAP 5.000人

昭和3年 長町、七郷村、七北田村、西多賀村、中田村、六郷村

～43年 斎藤村、岩切村、生田村、宮城郡、黒川郡、秋保町の編入

平成元年 市制100周年、政令指定都市に移行<人口89.6万人>

平成11年 人口100万人達成

テーマ② 仙台市が進める地方分権と大都市制度について

### 地方分権の概要

1. 地方分権とは  
国が全国一律で政策を決定する体制から、地域のことは自分達で決められる社会を目指して取組んでいます。
2. なぜ必要？何が出来るの？  
→より住民に身近な市町村が、行政サービスを提供すべき。  
(例)地域自治会は、幹事川道庁のある県済市に行かないとバスが通れなかった。→地域自治体でもバスが通れやすくなる。  
→より住民に身近な市町村が、行政サービスを提供すべき。  
→地域ごとに課題が異なる。地域の実情に応じた対策が必要！！  
(例)保育所の確保(乳児、ほくほく等)問題は、全国一律に決定されていた。→地域実情が多い地域と市長が国の丸め合は、要請要件の緩和が可能に。

テーマ③ 仙台市が進める地方分権と大都市制度について

### 地方分権の概要②

宮城県と仙台市、どんな事務分担になっているのでしょうか？

行政全体の取組

国  
宮城県  
仙台市(政令市)  
市町村

【国の事務】  
-防災-消防  
-国土-建設  
-国土-農林

【宮城県の事務】  
-保健-福祉  
-保健-福祉  
-保健-福祉  
-保健-福祉  
-保健-福祉

【仙台市の事務】  
-保健-福祉  
-保健-福祉  
-保健-福祉  
-保健-福祉  
-保健-福祉

【市町村の事務】  
-保健-福祉  
-保健-福祉  
-保健-福祉  
-保健-福祉  
-保健-福祉

⇒事務量から見ても、政令指定都市である仙台市は、より市民の皆様に着り届く行政サービスを行うことが可能です。

テーマ④ 仙台市が進める地方分権と大都市制度について

### 仙台市の取り組み(実例①)

仙台市では国や県から事務移譲を通して、市民の皆様への要する行政サービス向上に努めています。

～最近、移譲を受けた主な事例～

【例1】ツキノクマガが市街地等に出現した場合の緊急補修許可権限

(従来)  
・ツキによる被害が発生される場合、ツキを補修するためには、宮城県の許可が必要。  
・ツキが市街地にたまると緊急を要する場合も、県の許可に待たなければならない。  
・ツキも、

平成10年度から「緊急補修許可権限」を、宮城県から仙台市に移譲

(現在)  
緊急時、迅速な対応が可能に！

テーマ⑤ 仙台市が進める地方分権と大都市制度について

### 仙台市の取り組み(実例②)

～最近、移譲を受けた主な事例～

【例2】職員員数削減の給与等決定・定数決定・学級編制基準の決定

(従来)  
-公立の小・中学校の教員員数削減などの人事権は仙台市にあったが、給与自由や定数決定権は、宮城県が持っている。  
-このため、仙台市の教員員数の全体の定数や学級編制基準は、県の配分の中で決められていた。

平成29年度から「給与負担・教職員定数決定権・学級編制権」を、宮城県から仙台市に移譲

(現在)  
主体的に、各学校の実情に応じた教員配置が可能に！

テーマ⑥ 仙台市が進める地方分権と大都市制度について

### 財源確保の課題

事務移譲を受ける場合、同時に、財源の確保に努める必要があります。

【財源確保の課題】

財源不足の課題  
-指定都市は、道庁に代わり様々な事務を負担していますが、負担に応じた財源確保は不十分な状況です。結果、施設整備など「財源確保」が課題となっています。

【財源確保の課題】

財源不足の課題  
-指定都市は、道庁に代わり様々な事務を負担していますが、負担に応じた財源確保は不十分な状況です。結果、施設整備など「財源確保」が課題となっています。

財源不足の課題  
-指定都市は、道庁に代わり様々な事務を負担していますが、負担に応じた財源確保は不十分な状況です。結果、施設整備など「財源確保」が課題となっています。

## 話し合いを終えて

### ファシリテーターから



特定非営利活動法人  
まちづくり政策フォーラム  
理事

足立 千佳子氏

行政が市民の声を聞く場合、要望という形で受け取ることが一般的かと思いますが、仙台市では市民参画によるまちづくりという姿勢であり、市民のみなさまに重点政策をご理解いただき、かつ、自分事として考え、行動していただけるようなきっかけづくりとして、このフォーラムを企画されていると理解しています。参加者のみなさまからは、テーマに関する意見やそれ以外でもいくつかの要望が出されましたが、東北をリードする大都市仙台の果たす役割や、地方分権の根本である「地方自治」「住民主権」につながる芽が見られたことは大変心強く感じました。

### 担当職員から

まちづくり政策局  
政策企画課

郷古 大

まちづくり政策局  
政策企画課

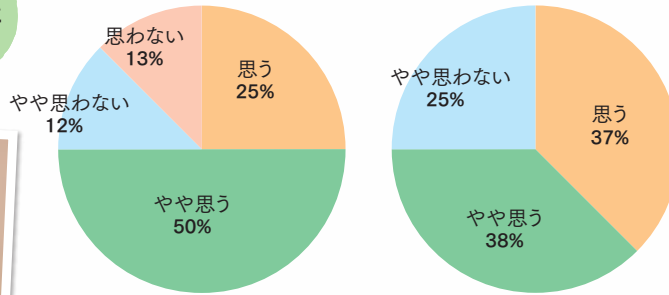
鈴木 雄登

日常生活の中では馴染みの薄いテーマにも関わらず、様々な視点から具体的なご意見をいただきました。地方分権や大都市制度が行政サービスに与える影響や、東北の中で唯一の政令指定都市として周辺自治体のためにできることはないのかという有意義な議論ができました。皆様からのご意見等をもとに、今後とも、より良い行政サービスを提供できるよう、地方分権の取組みを進めてまいります。

## 参加者の主なご意見・ご感想



この政策は、  
目標を達成できた  
と思いますか？



※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 8名

この政策は、  
私たちのくらしや  
仙台の活力に貢献したと  
思いますか？

### 政策の達成状況や成果について

- 具体例を挙げていただき、「地方分権」が市民の生活にすぐに役立っているという認識を持ってました。市民に寄り添って事情を把握しているからこそだと思います。
- もっと市民(行政の主役)の声や現状を見てほしいです。
- 市の人口が減っていくのが残念です。周辺地域を巻き込んで生き生きとしていくべきだと思います。
- 大都市ほど問題を抱えているのでその辺の考え方を聞いたのが良かったです。仙台の住みやすさをもっと前面に出して政策を立ててほしいです。
- 国の制度が関係する話なので、簡単には進まないと思います。単純に、財源や権限をよこせというだけでなく、地方分権が必要な理由をしっかりと提示できるようにすべきだと思います。
- 地方分権が進むと仙台市で決定できることが増えて良いと思います。
- 財源の確保に向けて、もっと国に働きかけるべきだと思います。

### 政策のこれからについて

- 仙台市としても大都市制度のグランドデザインを示すべきではないか。
- 今の仙台市のことをもっと知って、未来の仙台市について考えたいと思いました。
- 大都市として他の地域に力を貸さなければならないと思いますが、その前に自分(市)のことは自分(市)で守ることも考える必要があると思います。
- 役所にお任せする人が多いので、もっと市民から役所への働きかけが必要だと思います。
- 市民の意見を大切にしながら政策を進めてほしいです。
- サイレントマジョリティの話題が出ましたが、マイナンバーと連携して意見の集約を行えると良いと思います。
- 他の都市とも比較し、仙台にしかない特性をつくるべきだと思います。仙台の人口を増加させる政策を一番に考えたほうが良いと思います。
- 今はずいぶん少なくなったとは言われますが、学会や企業の支店配置など、東北は末尾に置かれることが多く、東北人はそこに甘んじていると思っています。東北から尊敬される、東北のリーダーとなる仙台市になり、その仙台に住むことを心から誇れるようになりたいです。

ご意見・ご感想

- ◎仙台市について、こんなに真剣に考えて、又、様々な方々とお話することができて、とても良い機会になりました。今後、わたしも仙台市民として市に対して何か参加、協力ができればと、思いました。
- ◎30年間ずっと仙台に住んでいながらも知らないことがたくさんあり、また、これまで自分が知ろうとしてこなかったことに気づきました。これから、もっと興味を持ったことに対し情報を集めていきたいと思いましたが、自分の周りにも知ったことを発信していきたいです。
- ◎今日発信したことの経過を見守っていきたくて思いました。
- ◎世代や立場の違う方々と話をできて、とても勉強になりました。また、普段なかなか考えることのない

- い"仙台市"の魅力を感じることができました。ぜひ、これからも仙台市政に関わっていきたくて思っています。
- ◎いつもは広報紙でしか情報を目にするのがなかったが、市職員から生の声を聞き、今後の市政について関心が高まるとともに仙台市に頑張ってもらいたいと思っていました。
- ◎市民⇄市、市民⇄市民の交流の場とコミュニティ強化で仙台市はよりよくなると思います。仙台の、「ずっと住み続けたいまちづくり」を応援します。
- ◎単なる行政の仕事とは思わずに、市民と仙台市の未来、命を預かっていると思って取り組んでほしいです。

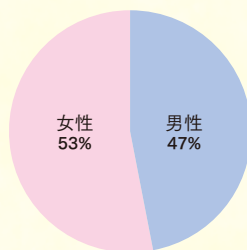
仙台市から

仙台市が進めている重要施策の中から、今回は10テーマ選びました。テーマについて担当者より説明したあと、これまでの目標の達成状況や今後の改善策について、参加者同士で話し合っていました。参加者からは前向きな提案や改善策をたくさんいただきましたが、情報発信が不足しているのご意見も多かったです。今後は政策を実施する意義なども含め、しっかりと周知していく必要があると感じました。イベント全体としては、「参加してよかった」というご意見が多く、「さまざまな方と話ができよかった」「もっとこのようなイベントをやるべき」とのご意見もいただきました。今回いただいた具体的で魅力的なご意見やご提案については市役所内で共有し、よりよい政策を実施するためにどのように活かしていくか検討していきます。

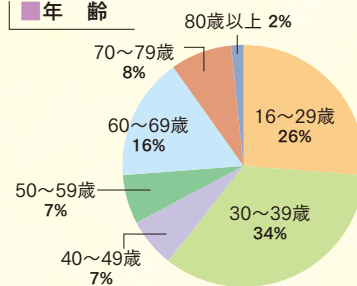
参加された方々

【参加者合計:62人】

性別



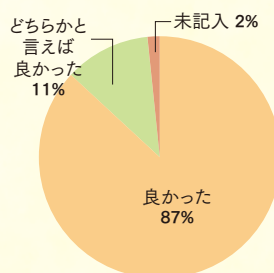
年齢



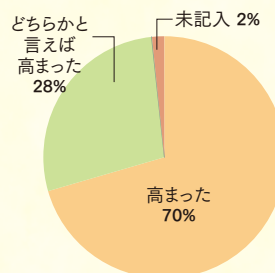
参加者アンケート  
の集約結果

【回答者:61人】

フォーラムに参加して  
いかがでしたか



市政に関する興味や  
関心は高まりましたか



仙台の将来を考える機会が  
あれば、参加したいですか

